

メキシコ

# メキシコ人が愛するルチャ・リブレ

馬場 香織

## ●はじめに

エル・サント、ブルー・デイモン、ミル・マスカラス、エル・ラジョ・デ・ハリスコ……これらは皆、ルチャ・リブレの伝説的な覆面「ルチャドール」(レスラー)たちのリングネームである。メキシコ流プロレスであるルチャ・リブレの魅力は、ルチャドールたちが宙を舞い、荒技を繰り出す迫力のある闘いに、罵声、野次、スポットライトの光、汗が飛び混じり、独特の陶酔的な「祭り」のような空間が創造されるところにある。筆者もはじめてのメキシコ留学時に、ルチャ・リブレ二大聖地のひとつとされるアレナ・メヒコに出かけ、その熱気に圧倒された夜の驚きが忘れられない。観客層は実に幅広く、子どもから年配者まで、主婦からビジネスマンまで、貧しい人も富める人も、今宵は皆この「劇場」を構成する一員とな

るのだ。ルチャ・リブレは間違いなく、サッカーと並んで、メキシコ人の心に最も深く根を下ろした国民的スポーツのひとつであるといえるだろう。本稿では、ルチャ・リブレがメキシコ人に愛される理由について、その大衆文化性に焦点を当てて検討してみたい。

## ●ルチャ・リブレの概要

ルチャ・リブレは、スポーツと劇場性を併せ持つ、メキシコの代表的な大衆エンターテイメントである。試合形式は日本やアメリカのプロレスと大きく変わらないが、ジャベ(鍵の意)と呼ばれる関節技および飛び技が多いのがひとつの特徴であるといわれている。善玉レスラーと悪玉レスラーが存在し、それぞれ「テクニコ」「ルード」と呼ばれる。悪役の反則技に観客は大ブーイングを浴びせ、傷ついたヒーローに声援と励ましを

送る。ヒーローは再び立ち上がり、悪を討つ。テクニコとルードの掛け合いともいえる闘いで、会場は熱狂的に盛り上がっていく。なお、悪役には外国人レスラーが登場することも多く、日本人レスラーも近年活躍している。試合会場は、メキシコシティの中心から近いアレナ・メヒコとアレナ・コリセオが二大聖地とされ、最も有名である。

## ●ルチャドールは世界をも救う

では、なぜルチャ・リブレはメキシコの人々を魅了してきたのだろうか。ルチャ・リブレの始まりは一九世紀に遡るが、冒頭にあげた多くの神話的ルチャドールが活躍し、その人氣が爆発的に高まったのは、一九五〇年代頃のことである。ルチャ・リブレが人氣を博した最大の理由は、それが単なるスポーツを超えた、フォークロア的な要素を多く備えながら発展し

てきた点にある。第一に、先に述べたようにルチャ・リブレには「正義」対「悪」のストーリー展開が織り込まれているのだが、正義のヒーローの活躍はリング上にとどまらなかった。彼らの闘いの主要な媒体となったのが、映画、そして一九五〇〜六〇年代頃から普及しつつあった白黒テレビである。数あるヒーローのなかでも、銀色の覆面ルチャドール、エル・サントの人氣は絶大であった。善、規律、名譽を体現するエル・サントは、リング上で敵の悪役を打ち負かしたが、それだけではない。彼が主役となった映画は実に五〇本以上にのぼり、その多くは一九六〇〜七〇年代にかけて制作された。映画のなかでエル・サントは、ゾンビ、ミイラ、吸血鬼、狼男から犯罪組織まで、あらゆる悪と闘い、人類を危機から救うのである。このように書けば、ラテンアメリカ的なシニールレアリスムに聞こえるかもしれない。しかし、多くのメキシコ人にとってエル・サントは「リアル」であったし、彼が世界を救うか否かは切実な問題であった。一九七〇年代に幼少期を過ごした、筆者のメキシコの友人の次のような言葉が、それをよ

く物語ってしよう。

「いつもの昼下がり、小さな白黒テレビのなかで、エル・サントは世界を救うために悪と闘っていた。市場で買ってもらったルチャドールのゴム人形で闘いごっこをしながら、エル・サントに声援を贈った午後の風景が、僕にとって一番幸せな幼少期の記憶だよ。」  
こうしたルチャ・リブレ黄金期

の記憶は、リング上で展開される闘いと相まって、多くのメキシコ人のなかに生き続け、あるいは再生産されることとなった。

### ●覆面のマジック

ルチャ・リブレのフォークロア的な第二の要素として、覆面によるルチャドールの神格化や、大衆文化への浸透をあげることができ

るだろう。元来短パンにブーツのみで格闘していたルチャドールたちが覆面を用い始めたのは、一九三〇年代頃のことである。さらにこの覆面がルチャ・リブレで重要な意味を持つようになったのは、先の伝説的ルチャドールたちがリングの内外で活躍した一九五〇年代以降であった。エル・サントはその死後、葬儀の際にも覆面のままであったという逸話が残っているが、

覆面はルチャドール、そしてルチャ・リブレとしばしば同一視され、またリングネームと合わせて正体不明のヒーローの神格化を促してきた。

一方で、覆面、ルチャドール、ルチャ・リブレは、さまざまな大衆芸術で「メキシコ的なもの」を体現するモチーフとして用いられ、大衆文化に浸透していった。メキシコの現代アートでは、ルチャ・リブレをモチーフにした写真やグラフィックデザインに加え、メキシコの伝統民芸の手法を用いた作品も、国内外で数多く発表されている。

以上みたように、ルチャ・リブレは、リング上だけでなく、その外でもメキシコ人の生活や文化に浸透していくことで、単なる格闘技を超えてメキシコ人のアイデンティティに深く関わるようになり、また対外的にもメキシコを象徴するものとして認識されるようになった。ルチャ・リブレの伝説的ヒーローたちが銀幕で闘ったのは一九八〇年代頃までのことだが、エル・サントが体現する黄金時代に、ルチャ・リブレはメキシコの

### ●おわりに

大衆文化における地位を確立したといえる。

エル・サントに熱狂して育った世代が親となり、子どもを連れてルチャ・リブレ観戦に出かけ、次の世代にルチャ・リブレ文化が継承されている。また、ルチャ・リブレには世襲ルチャドールが多いことも、人気を引き継がれる理由のひとつであろう。かのエル・サントのジュニアをはじめ、多くの二世ルチャドールが現在も活躍している。もちろん、世襲以外の優れたルチャドールも多く誕生している。彼らが宙を舞い、現実とは思えない鮮やかさと敏捷さ、力強さをもって格闘し、最後に正義が勝つまでを見守るメキシコの子どもの目に、驚きと興奮の輝きをみると、ルチャ・リブレのマジックが今なお続いていることを知るのである。

#### 《付記》

Deseo expresar mi agradecimiento a Sergio Santiago por su invaluable comentario acerca de la mexicanidad de la Lucha Libre.

(ばは) かおり／アジア経済研究所 ラテンアメリカ研究グループ)



ルチャ・リブレ By Eneas de Troya (<https://www.flickr.com/photos/enea/9575751109/>)

るだろ。元来短パンにブーツのみで格闘していたルチャドールたちが覆面を用い始めたのは、一九三〇年代頃のことである。さらにこの覆面がルチャ・リブレで重要な意味を持つようになったのは、先の伝説的ルチャドールたちがリングの内外で活躍した一九五〇年代以降であった。エル・サントはその死後、葬儀の際にも覆面のままであったという逸話が残っているが、

大衆文化における地位を確立したといえる。

エル・サントに熱狂して育った世代が親となり、子どもを連れてルチャ・リブレ観戦に出かけ、次の世代にルチャ・リブレ文化が継承されている。また、ルチャ・リブレには世襲ルチャドールが多いことも、人気を引き継がれる理由のひとつであろう。かのエル・サントのジュニアをはじめ、多くの二世ルチャドールが現在も活躍している。もちろん、世襲以外の優れたルチャドールも多く誕生している。彼らが宙を舞い、現実とは思えない鮮やかさと敏捷さ、力強さをもって格闘し、最後に正義が勝つまでを見守るメキシコの子どもの目に、驚きと興奮の輝きをみると、ルチャ・リブレのマジックが今なお続いていることを知るのである。

#### 《付記》

Deseo expresar mi agradecimiento a Sergio Santiago por su invaluable comentario acerca de la mexicanidad de la Lucha Libre.

(ばは) かおり／アジア経済研究所 ラテンアメリカ研究グループ)